

平成15年度 天皇杯  
綾織町地域づくり連絡協議会  
(岩手県遠野市)



住民総参加で「夢」を綾なすむらづくり  
～地域活動の推進母体「綾織町地域づくり連絡協議会」～

綾織町は、遠野市西部の田園地帯に位置する総戸数 595 戸の地域で、女性と若者の「夢」の実現をキーワードに、住民総参加による新しい地域づくりと農業の振興に向けて、創意工夫に富んだ取り組みを進めています。

活動の推進母体である「綾織町地域づくり連絡協議会」は、農業担い手集団を中心とした地域営農、女性や高齢者による伝統文化の継承、都市との交流や地産地消の推進などの活動を支援する地域づくりの中心的な役割を担っています。



若者が「夢」を叶えるむらづくり  
 ~ 農業の担い手集団「あやおり夢現会21」 ~

魅力ある農業の実践や農村の実現のため、若者達は、農業担い手集団「あやおり夢現会 21」を組織し、地域の農作業を一括して受託するほか、地元の畜産農家と連携しながら、堆肥を活用した土作りを進めるなど、耕畜連携による循環型農業を実践しています。

さらに、綾織地域で生産された農産物は、道の駅に併設した産直施設や、綾織の女性達による郷土料理の店「夢咲き茶屋」で提供されるなど、地産地消の取り組みも進められています。



女性達が「夢」を咲かせるむらづくり  
 ~ 自立した農村女性「あやおり夢を咲かせる女性の会」 ~

田んぼの中に公衆トイレの設置を実現させた女性達は、「あやおり夢を咲かせる女性の会」を組織し、郷土料理の店「夢咲き茶屋」を開設するほか、地域の高齢者とともに、小中学校で伝統的な機織りや蕎麦打ちを実演するなど、地域の歴史や文化の伝承を行っています。

また、北東北3県の農村グループ等に呼びかけて、地域に伝わる鍋物を夜なべして楽しむ「ナベナベサミット」を開催し、都市住民も含めた広域的な交流へと発展させています。

## 特 色

### 1. むらづくりの背景・動機

綾織地区は、遠野市中心部から 6km に位置する田園地帯で、総面積 57.13 k m<sup>2</sup>、世帯数 595 戸（うち農家数は 348 戸）人口 2,095 人である。

標高は 230m ~ 400m で、県内でも寒冷地帯（年平均気温 7 ~ 9 ）に属し、四季の移り変わりが明瞭である。

平成 2 年に県営低コスト水田農業大区画ほ場整備事業（以下「ほ場整備事業」）の導入に向けて話し合いが行われ、その中で女性たちが大型ほ場内に女性トイレがないことに問題意識を持ち、これを契機に地域をより住みやすい環境とするため、「団体や行政に提言していこう」と綾織地区に住む女性なら誰でも入会できる「あやおり夢を咲かせる女性の会」（以下、「女性の会」）を組織し、会への参加を呼びかけ、地域の話し合いの場への参加を始めた。

### 2. むらづくりの内容

綾織地区では、地域住民が地域づくりに何らかの形で加わるとともに、地縁集団と機能集団がうまくかみ合うことにより、約 600 戸に及ぶ地域が一体感を持って、地域、世代間を越えて親近感のある密度の濃い人間関係を形成している。

綾織地区のむらづくりの特徴は以下の 5 点にまとめられる。

女性、若者を中心に、各層各世代が自信をもち役割を担っていること。

若者による担い手組織を中核とする持続的で効率的な農業生産システムが構築され、地域農業が発展していること。

男女共同参画社会が形成されていること。

若者と女性による取組を契機として、地域を見直す活動が広範に展開され、これが世代間交流や地域間交流に結びついていること。

行政をはじめとする関係機関との効果的な連携を保持していること。

#### 農業生産面

平成 6 年に「あやおり夢現会 21」が設立され、綾織地区の農作業受託組織として、水稻は耕起・代掻き・田植・収穫作業を、集団転作の大豆・小麦・そば等は耕起から収穫までの一連の作業を、それぞれ受託している。（平成 7 年の集団転作地 89.3ha）そして、大型機械化体系による効率的な作業を行うことにより、水田の高度利用と生産性の向上が図られ、転作の大豆・小麦・そばの作付面積は拡大している。こうした転作作物は地区内にある道の駅「遠野風の丘」での利用などを通じて、地産地消の柱となっている。

#### 生活・環境面

平成 10 年から「あやおり夢現会 21」が地元の畜産農家や隣接地域の大型畜産農家と連携して循環型農業に取り組み、稲わらと交換した堆肥の施用による土づくりを行っている。平成 14 年には稲わら供給面積は 22ha に、堆肥散布面積は 154ha に拡大している。また、元来、花壇づくりが盛んな地域であったが、平成 11 年に「花街道あやおり実行委員会」を組織し、国道沿いに延べ 8 km にわたり 4 万本のマリーゴールドの苗を植栽し、「イエローベルト」を住民総出で創りあげている。さらに、特色ある地域づくりの一環として、大正時代まで栽培が盛んだった「杏」を綾織地区の花木として植栽し、杏の花が庭先を彩っている。これは、3 カ年間の計画で「杏」の苗木 600 本を綾織地域の全世帯に配布した結果である。将来は、地域の名所である「桜街道」と併せて、「杏の里」として PR を行い、杏加工品の特産化も図り、地域の活性化を図ることを考えている。日々の生活環境の整備を図るため、「女性の会」に「環境づくり部門」や「トイレ

管理部門」を設け、「田んぼの中の公衆トイレの清掃」や「EM 菌を使った生ゴミの堆肥化」などに取り組み、EM 菌を使った堆肥は、産直で販売する野菜の栽培に利用している。景観形成の面においても、「田んぼの中の公衆トイレ」は休憩室を兼ねた曲屋風とし、ほ場内に点在する配水槽は、女性達のアイデアを参考に、その壁面を石垣風にしたもの、展望台を兼ねているもの、水車小屋風にしたものなど、農村景観に融合するよう工夫を凝らしている。

#### 食農教育や伝統文化の伝承における活動

高齢者や女性達を中心となって、平成 12 年から農作業体験と地域の食文化や伝統文化の伝承活動を、小中学校と連携しながら積極的に行っている。学校農園での野菜栽培支援や生産物の買取り（夢咲き茶屋）、総合学習の時間における郷土料理づくりへの取り組みなどがあり、次代を担う子供達の農業・農村への理解と愛着が深まっている。また綾織の地名にもあるように、かつては各農家で羊を飼い、羊毛を用いた機織りが盛んであった。こうした機織りの歴史や文化の伝承活動も「女性の会」を中心に行われている。さらに、「綾織しし踊り保存会」（45 名）、「石上神楽保存会」（11 名）、「山口太神楽保存会」（21 名）、「遠野郷南部田植踊保存会」（80 名）、「綾織南部はやし保存会」（50 名）の 5 つの郷土芸能保存会が地区別に組織されており、高齢者が小中学生を指導することにより郷土芸能が伝承されている。

#### 交流による地域活性化

平成 12 年には、鍋物を夜なべしながら楽しみ、地域づくりについて語り合う「ナベナベサミット」が「女性の会」が呼びかけにより開催され、東北 3 県（青森県、秋田県、岩手県）から 100 名以上の参加者があった。以来、この催しは 3 県の持ち回りで毎年開催され、最近では都市部からの参加者が半数を超える。更に、平成 13 年からは、県内版の「いわてナベナベサミット」を遠野市で開催している。また、「夢咲き茶屋」では毎週土日に、消費者を対象とした餅つきや焼きとうもろこしなどの季節の食材を提供するイベントなどを行い、生産者と消費者との交流を一層盛り上げている。